

2020年度第8回3月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2021年3月
2. 開催の場所 各委員に資料を郵送して番組をお聞きいただき、
意見・感想を返信してもらう形式で開催
3. 委員の出席 委員総数9名
返信総数8名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	副委員長	河又弘子
	委員	竹内明子
	委員	古口 悟
	委員	藤澤 勝
	委員	富田哲夫
	委員	小祝章二
	委員	大森玲子

4. 議 題

- (1) 報道特別番組「防止・減災を学ぶ」

2021年2月20日(土)～3月6日(土) 3回放送

- (2) その他

5. 議事内容

(1) 報道特別番組「防止・減災を学ぶ」

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴していただいた

議題説明：3回に渡って、防災・減災について考える特別番組。気象予報士で防災士の福嶋真理子さんをコーディネーターに、第1回は雪、水害。第2回は感染症対策。第3回は震災への備えをテーマに被災者や気象関係者、有識者へのインタビューを織り交ぜながら番組を構成した。

各委員からは、

- 東日本大震災から10年を迎え、この時期での企画は大変有意義。被害者や行政機関の声などで構成されており、平常時に考えておくべきことを冷静に伝えていて受け止められやすい。AM放送の存在意義として災害時の情報伝達があるが、今後は、家族などとの連絡の取り方など情報面全般の話題も取り上げる良い。
- 気象予報士で防災士のアナウンサーがコーディネーターを務めていてとても充実した内容だった。ただ詰め込み過ぎの感があった。水害の内容については、台風時期などの方が良かったのでは。気象情報や被災した家屋数などデータが矢継ぎ早に出てきてイメージが広がらなかった。ラジオとしての伝え方の工夫が必要。ポッドキャストでも聴くことができるなど平時でも活用されるラジオに変えるきっかけにできる番組でとても有効。
- 時宜を得た素晴らしい番組だった。取材先の選択も良かったが、一部耳触りの良くない方がいた。同じ業種で複数の方の声を聴きたい。災害時スマホは不通になることもあり、頼りになる公衆電話が少ないことは不安で心配だ。
- 3回とも番組構成がとても良かった。被災された方、コロナに感染された方のインタビューは考えさせられた。専門家の話も役立つもので、危機管理に対応する優れた企画だった。放送の時間帯を朝の通勤時間帯にすると、聴く人が広がるのではないか。
- 番組に入り方が当時の報道の音を出すなど危機感を煽る入り方で良かった。雨に少ないこの時期に水害の内容はリスナーが自分のことにできたのか疑問が残る。季節で災害を切り分けた方が良いのでは。
- 新型ウィルスや感染や自然災害などの非常時を経験した方の経験談はわが事として捉える上で大変重要な内容だった。経験していない者が決して他人事ではないという意識を醸成するうえでとても良い番組だった。

- 東日本大震災から10年という節目に、改めて防災意識を喚起することは重要で、時宜を得た企画だった。災害体験者や専門家の話の後、コーディネーターが必要な点を教訓として取りまとめるなど、よりリスナーの印象に残る工夫がなされていたのが良かった。もう少し狙いを明確にして取材相手の選定した方が番組としてより幅が広がったのではないか。
- 万一の時に備え、心の備え、物質の備え、避難先、避難行動を確認しておくことが大切と改めて感じた。新型コロナに感染した場合の備えは考えていなかったのが参考となった。災害時にはラジオは有効。引き続き迅速で正確な情報の提供・発信をお願いしたい。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の答申および意見の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」
(2021年4月4日(日) 午前8時5分放送)
- ② 当社のホームページに掲載(2021年4月6日～)
- ③ 当社事務局に議事録備え置き(2021年4月6日～)

以上